

## モクズガニ捕獲時に混獲されるニホンイシガメ

山口達成

631-8505 奈良県奈良市中町3327-204 近畿大学農学研究科漁業生産システム研究室

The Japanese pond turtle (*Mauremys japonica*) bycatch during capture of Japanese mitten crab (*Eriocheir japonica*).

By Tatsunari YAMAGUCHI

Laboratory of Fishery Production System, Graduate School of Agriculture, Kindai University, 3327-204 Nakamachi, Nara 631-8505, Japan.

2017年8月25日、三重県山間部のある河川を訪れた際にカニ籠内で複数のニホンイシガメ(以下イシガメ)4個体が捕獲されているのを目撃した(図1)。捕獲されていたイシガメは全て溺死もしくはそれに近い状態であり、ヒルの付着や頭部を損失した個体もみられた(図2)。この河川ではモクズガニが漁業や遊漁として利用されており、種苗放流が漁業協同組合によって行われている。漁業に利用される罟や網は偶発的にカメを捕まえて溺死させることがあり(Fratto et al., 2008)、今回イシガメが溺死していたカニ籠もモクズガニ捕獲のために設置されていたと考えられる。通常、漁業でカニなどを捕獲する場合は罟を水深の深い場所で1~3日間沈めるため(Bury, 2011)、水上で頻りに呼吸を行う必要があるイシガメは溺死してしまう危険性が非常に高い。国内における淡水域でのカメ類の混獲を対象にした研究例は無く、海外においても非常に少ない。今後は国内における淡水ガメの混獲状況の更なる把握や認知度向上が早急な課題であり、漁業者などに対しては罟の設置時間の短縮を促すなどの必要性がある。

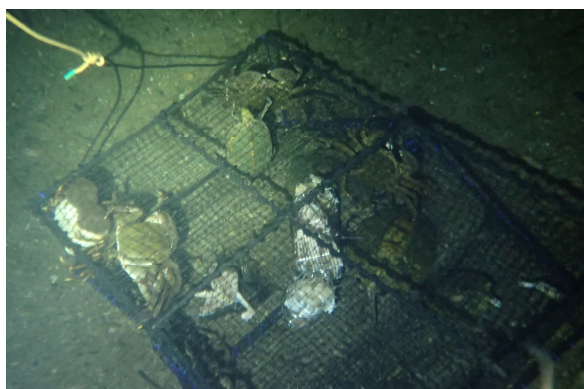


図1. モクズガニに混じってカニ籠で捕獲されるニホンイシガメ。



図2. ヒルの付着(右から2番目)や、頭部が損失した状態(左下)のニホンイシガメ。

### 引用文献

- Fratto, Z. W., V. A. Barko, and J. S. Scheibe. 2008. Development and efficacy of a bycatch reduction device for Wisconsin-type fyke nets deployed in freshwater systems. *Chelonian Conservation and Biology* 7:205–212.
- Bury, R. B. 2011. Modifications of Traps to Reduce Bycatch of Freshwater Turtles. *Journal of Wildlife Management* 75(1):3–5.